



2024 年春季全国技術部会 概要報告

北海道ブロック全国技術部員 渡邊公平

全国春季技術部会は、今シーズンの指導員研修テーマについて各ブロックからの総括が報告され、それを踏まえて来シーズンの研修テーマを検討するために開催されます。

4月13日～14日長野県志賀高原横手山スキー場で行われた今回の部会には全国から12名が参加し、北海道で初めて認定された2名のデモのうち岩見沢WFの宮腰大さんも初参加しました。

今シーズンの研修テーマは『ターン後半の足場を確保し、切り替え時に前に出てターンポジションまで行くことで谷回りターンにつなげる』の3年目でした。過去2年はターンのための3要素の「角付け」と「荷重」をテーマに進めました。今シーズンは「ポジショニング」について指導員検定種目の「真下への横滑り左右連続」を使って確認することがテーマとなっていました。

「真下への横滑り左右連続」を4つの局面に分解して技術を確認することで、この種目にはターンを行うために必要な技術の全てが含まれていることが確認でき、スキーの操作能力を見る検定種目としての意味も理解できました。

そして来シーズンの研修テーマは『真下への横滑り左右連続から谷まわりターン技術への展開（仮題）』となりました。

『真下への横滑り左右連続』の4つの技術の局面がターンの中で

どう使われるのか、「ベーシックパラレルターン」にどう活かしてターン技術を極めていくのかの再確認を来シーズンのテーマとして検討しました。

「ベーシックパラレルターン」は、技術の幅が大きい種目ですが、最終目標の滑り方を目指した谷まわりターン技術がどのようなものか、来シーズンが楽しみになる今回の技術部会でした。



スキーシーズンも残りわずか…

☆今シーズンの皆さんの指導員活動はいかがでしたか☆

— 思い出に残る講習、講習でこちらが学ぶこと、講習する時日頃から注意していること等、様々なご意見をホストアップにお寄せ下さい。いろんな体験や悩みを皆さんで共有しましょう —

トップバーターは…「指導員の喜び」

塩野谷 勝子さん（オフピステ）

指導員となっていよいよ教える立場に仲間入りすることができて、こんなふうに教えたい、あんなふうに教えたら喜ぶかなあ、こんな指導員になりたい等々わくわくして挑んだ常設学校。

私は初歩の子供たちを受け持ち、2日間で滑れるようにするというカリキュラムに緊張する。

生徒は学童保育の子供たちだった。うまくいかないながら頑張る子、うまくいなくて癩癩を起こす子、すぐに上達する子、いやいや仕方なくやる子、みんながやりたくて来ている子ばかりではなく学童

の行事としてのスキースクールだった。

「ぼく、嫌いなんだよなあ。連れてこられたんだ」とい

う子供の話を聞いて、そうか、学童の子供は共同生活だからいやいや来た子もいるんだと考えさせられてしまった。

おしっこ、疲れたから友だちの滑りを見て、大切な2日間の時間なのと思ったけれど、その子に寄り添うことも指導員の役目と思い、その子の気持ちになって「お友達の滑りを見てあげようね」と側にいる。そのお友達も「ぼくの滑るの見てたらいいよ」と得意顔でリフトに乗って滑りを披露してあげる。二人は仲良しの気の合う友だちだったので、お互いを尊重し合える良い友達であった。

友達の滑りを見学しながら、とりとめのない話でリラックスするひと時。教えたことは理解できているのに、失敗をすることがいやで泣きそうになりながらの頑張り屋でした。完璧にできないことが辛い性格の子なので、転ぶことはいやだったのだ。

ところが、2日目の終盤に「滑ってみるかなあ」と言ってくれたので、ほっとして「そうかい、やってみるかい」と励まされながら

リフトに乗って滑った。なんと、転ばないでおりてこれた時の喜びの歓声が素敵でした♥満面の笑みで面白かった！の言葉がうれしかった。

ところが、得意げに滑りを披露したお友達は自分よりうまく滑れたことに驚き、もう一回滑る!!と言っている。しかし、それが最終の時間となっていたので二人で滑らせてあげられなかったけれど、何とか納得してくれた。二人は来年も来る!!と言ってサヨナラをした後ろ姿に泣きそうになりました。なんと素敵な友だち関係に感動し、教育とは自然の営みから育まれることを教えられました。

私は指導員としてスキー指導の実践の中でその意義の大きさを知り、喜びが沸々と湧いてきました。



☆ ご意見をお寄せ下さい ☆

送り先 教育部 小野寺

メールアドレス h-onodera@jcom.home.ne.jp